

経営戦略事業評価調書（令和5年度取り組み状況）

■ 地域振興事業

A: 上回った(達成した)
(120%超の成果)

B: 予定通り(達成した)
(120%~80%程度の成果)

C: 下回った(達成できなかった)
(80%を下回る成果)

経営方針を踏まえた事業計画		令和5年度の取り組み状況・実績	令和5年度 取組評価	達成できなかった理由、改善策
項目	目標			
<1 指定管理者制度の適正な運用>				
1	指定管理者制度の適正な運用による施設運営の継続	指定管理者制度の適正な運用により、地域振興事業の経営の健全化を図る。	指定管理者のモニタリング調査等を通じ、制度の適正な運用を確保するとともに、円滑な施設運営の確保を図った。	B
2	収益的収支の黒字化	経費削減に努め、収益的収支の黒字を継続する。	前年度の純利益2,145万円に対して、当期純損失は1,081万円となり、1年ぶりの赤字となった。	C
3	借入金の計画的な償還	毎年度生じる損益勘定留保資金を借入金償還の財源として優先して充当し、計画的な償還を行う。	損益勘定留保資金を充当し、計画どおり、4,387万円の償還を行った。	B
4	丘の公園施設・設備の計画的な更新・改修	今後7年間の更新需要額の試算	施設・設備の計画的な整備を行うため、7年間の計画期間中に、設備改良費約9,600万円、修繕費約2億200万円を見込んでいる。このうちR5年度は、設備改良費183万円、修繕費3,057万円を見込んでいる。	C
	イ 当該期間の主な整備事業	カート通路更新(ゴルフコース)等を行う。	設備改良費は2,316万円の支出(計画比1,265.6%)、修繕費は1,075万円の支出(計画比35.2%)となった。	B
<2 丘の公園の魅力向上に向けた施設運営のあり方の検討>				
事業継続が可能となるような事業規模や県民の新たな余暇ニーズに対応した施設運営のあり方等が問われていることを踏まえ、社会情勢の変化等により必要と認めるときは、外部検討委員会による検討を行い、丘の公園の魅力向上に努める。		-		-
<3 経営の効率化・健全性の確保>				
1	財政基盤の強化・効率化	より一層の事務的経費の縮減を図り、経営の効率化に努める。	事務的経費の支出が1.7万円となり、前年度(17.2万円)に比べると、事務的経費が減少した。 ※事務的経費=旅費、雑費	B
2	その他経営基盤強化	ア ハケ岳南麓地域の振興	清里ウォーク等のイベントに協力するなど地域との連携を図る。また、地元の関係者や県関係機関等と連携し、ハケ岳南麓の地域振興のあり方等について検討する。	B
3	資金管理・調達	財政健全化法の施行により資金不足比率が導入されたことも踏まえ、資金不足とならないよう納入金を安定的に確保するとともに、施設の維持管理経費等の支出は、収入に見合ったものとする。	資金不足比率は△2.6%となり、資金不足は生じなかった。	B
4	危機管理の体制整備	ア 緊急時の対応	災害その他の事故等が発生した場合を想定したマニュアル等に基づき、緊急事態発生時には、指定管理者と連絡を密にし、適切な対応を図る。	B
		イ ゴルフ場の農業使用の適正化	農業の使用については、「山梨県ゴルフ場における農業の安全使用に関する指導要綱」に基づき適正に行うほか、定期的にゴルフ場からの流出水についても水質検査を実施し、ゴルフ場における農業使用の適正化を図る。	B
		ウ アクアリゾート清里プール、温泉の衛生管理	プールの水質は、「山梨県プール維持管理指導要綱」に基づき、遊離残留塩素濃度は毎日、過マンガン酸カリウム消費量、水素イオン濃度、大腸菌群、濁度は毎月1回以上の検査を実施するとともに、温泉の水質は、「山梨県レジオネラ症発生防止対策指針」に基づき、年2回以上の検査を行い、適切な管理を行う。	B
		エ 個人情報保護対策	企業局が定める「丘の公園の個人情報の保護に関する要綱」に基づき、適正な取扱いを図る。	B

経営戦略事業評価調書（令和5年度取り組み状況）

■ 地域振興事業

A: 上回った(達成した)
(120%超の成果)

B: 予定通り(達成した)
(120%~80%程度の成果)

C: 下回った(達成できなかった)
(80%を下回る成果)

経営方針を踏まえた事業計画		令和5年度の取り組み状況・実績	令和5年度 取組評価	達成できなかった理由、改善策
項目	目標			
<4 投資・財政計画(収支計画)>				
1 投資試算(投資計画)	施設・設備の計画的な整備を行うため、7年間の計画期間中に、設備改良費約9,600万円、修繕費約2億200万円を見込んでいる。このうちR5年度は、設備改良費183万円、修繕費3,057万円を見込んでいる。	設備改良費は2,316万円の支出(計画比1,268.4%)、修繕費は1,075万円の支出(計画比35.2%)となった。	C	施設・設備の老朽化に伴い、設備改良費の支出が増大した。
2 財源試算(財源計画)	指定管理者からの納入金については、R5年度までは年間1億4,545万円(税別)と計画している。	計画通り実施した。	B	
3 投資・財政計画(収支計画)	R2年度以降の収益的収支については、安定した納入金の確保と減価償却費の減少等により、黒字での推移を見込んでいる。 資本的支出については、設備改良費、借入金の償還費など約4,200万円から約6,300万円の支出を見込み、損益勘定留保資金などの内部留保資金を財源として充てることで対応する。 R5年度は、4,221万円の支出を見込んでいる。	収益的収支については、1,081万円の赤字となり、計画の286万円の黒字に対し、795万円減(計画比-378.5%)となった。 資本的支出については、4,221万円の支出見込みに対し、6,703万円の支出(計画比158.8%)となった。不足する6,703万円については、消費税及び地方消費税資本的収支調整額及び損益勘定留保資金で補てんした。	C	揚湯ポンプ故障による営業補償費及び前指定管理者の貸倒引当金計上のため支出が増大した。